

みらくるTV “首都直下地震. 備えを急げ!”

第21回 事前復興を考える(3)

我家の「復興家計」を考える

2021年3月13日 19:30~21:00

なかばやし いつき

中林 一樹

東京都立大学・首都大学東京 名誉教授
明治大学 復興・危機管理研究所 研究員

1

1. 東日本大震災:津波被災者の「復興感」

～重回帰分析の標準化係数による復興感を規定する生活事項の回復感～

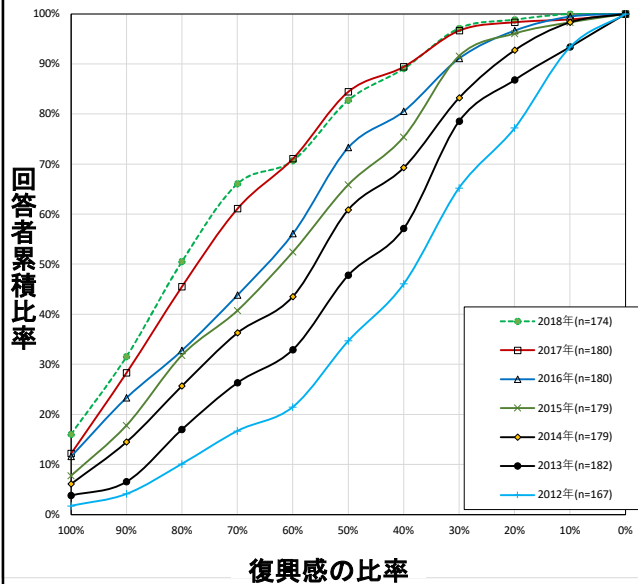
生活項目	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
毎日食事	0.26**	0.22**	0.16**	—	0.24**	—	—
買物の便	—	—	—	—	—	—	—
医療状況	—	—	—	—	—	—	—
仕事状況	—	—	—	—	—	—	—
家族収入	0.20**	0.20**	0.14**	0.13*	0.25**	0.32**	0.17*
近所関係	—	0.13**	0.13**	—	—	—	—
子供生活	—	—	—	0.25**	—	—	0.18**
住宅状況	0.46**	0.41**	0.45**	0.35**	0.33**	0.44**	0.12*
通勤の便	—	—	—	—	—	—	—
外出の便	—	—	—	—	—	—	0.24**
地域復興	—	—	—	0.31**	0.27**	0.22**	0.41**
決定係数 ¹⁾	0.51	0.56	0.59	0.62	0.58	0.54	0.66
分析票数 ²⁾	171	180	190	174	176	169	183

1)調整済 2)未記入除く —:除外された説明変数 変数投入:ステップワイズ法

2

東日本大震災・津波被災者の「復興感」にみる課題

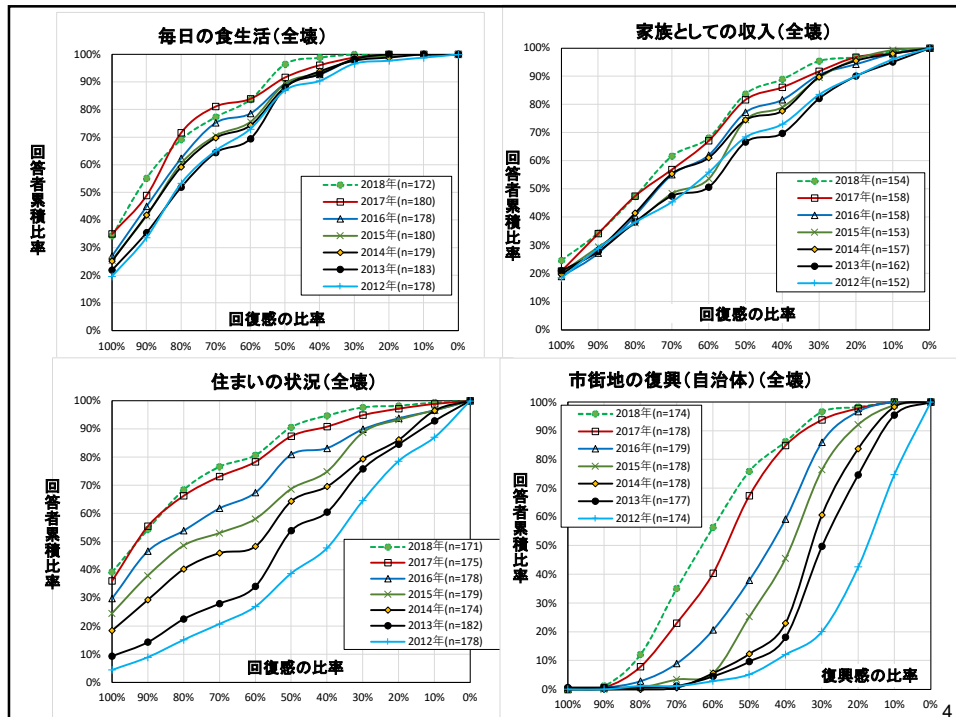
生活全般の〈復興感〉の推移（全壊者）



被災者が思い描いた「復興目標」に対してどのくらい達成したのか問うた「復興感」を規定する有意な要因として、「日常生活の回復」「収入(仕事)の確保」「住まい再建(見通し)」「市街地の復興」「隣近所の繋がり」「コミュニティの再興」が導出された。これらは被災者復興の重要な「要素」であり、事前復興の重要な取り組み課題である。

3

3



4

東日本大震災の、津波被災者の「復興感」に学ぶ “災害復興”とその“復興支援”の基本方向

- 被災者の主観的な「復興感」は、
 - ①生活の糧である「**仕事や世帯収入の回復**」を急ぎ、
 - ②食生活など家族の「**日常生活の回復・創生**」し、
 - ③そして、「**住宅再建の見通し**」が持てて、初めて、
 - ④「**まち(市街地・コミュニティ)の復興**」に目が向く。
- 被災者の災害復興とは、「『**仕事・収入**』を迅速に回復して、被災者の『**復興家計**』が確保できれば、『**日常生活**』を取り戻し、『**住まい**』の確保を考えるとときに初めて、どこに住むのかと「市街地(まち)」の復興が自分事になる。

6

6

2. 住まいの事前復興計画づくり

～“マイ住宅復興プラン”を想定してみよう～

- あなたの街の直下で大きな地震が発生しました。震度6強の強い揺れでした。多くの住宅が、半壊以上の被害となり、火災も発生しました。
- 幸い、家族は皆、無事でした。
- この後、どのように「生活の場」を確保し、最終的にあなたの家族の生活拠点である「住まい」を復興していきますか。
- 被災者になってみて、我家の被災から、どのように住宅再建までたどり着きますか。
“**マイ住まい復興プラン**”のシナリオを考えよう。

7

7

我が家のマイ住宅復興プラン		住宅形式 所有	
みらくるTV2021.2.27(中林一樹)		1. 戸建住宅 a. 自己所有	2. 共同住宅 b. 賃貸
① 自宅の被害程度 (1～3を選ぶ)	② 家族の避難先 (複数考えてみる)	③ 仮住まい先 (複数考えてよい)	④ 住まいの再建 (複数考えてよい)
1. 全壊・全焼 (50%以上損壊) 2. 大規模半壊 (40～50%損壊) ③ 中規模半壊 (30～40%損壊) 4. 小規模半壊 (20～30%損壊) 5. 一部損壊。 (20%以下損壊)	① 指定避難所 (中央林間小学校) () ② 縁故避難 (息子宅 A) (息子宅 B) (義弟宅) 3. その他の避難先 () ④ 在宅避難 (在宅で就寝)	① 建設型仮設住宅 ② 借上型仮設住宅 3. 在宅(応急修理) 4. 自分で賃貸する (アパート・マンション) 5. 知人親族を賃貸 6. その他 () A. 自宅の近くが良い B. 同じ自治体内で C. 遠くでもよい	1. 自宅を新築・購入 2. 中古住宅を購入 3. マンションを購入 4. 中古マンションを購入 5. 災害公営住宅 6. 賃貸住宅に住む 7. その他(修理) A. 元の場所に B. 同じ自治体で C. 遠くでもよい
<被災の理由>	<避難期間>	<仮住まい期間>	<本設時期>
1. 1981年以前の家を 耐震補強せず 2. 壁の配置が不均等 3. 瓦屋根で重かった 4. 地盤が悪かった 5. 他(宅地一部擁壁)	* 避難()週・月 1. 在宅で(2)週 2. 避難所(2)週 3. 縁故で(1週間ごとに 回る合計18週間) 4. ()に()週・月	* 仮住まい()月 1. 借上仮設(48)月 2. 建設仮設()月 3. 在宅 4. 自己賃貸 5. ()に()月	* 住宅の本格修理は 災害後(3年以内で) * その理由は？ 1. 資金不足(年金) 2. 家庭の事情 3. その他

8

3. 被災から住宅の再建に向かうプロセスでは、 どんな生活・暮らしになるか住我家の生活 継続計画(被災生活ストーリー)を考える

- あなたの街の直下で大きな地震が発生しました。
震度6強の強い揺れでした。多くの住宅が、
半壊以上の被害となり、火災も発生しました。
- 幸い、家族は皆、無事でした。
- その後あなたは、どんな避難生活を展開し、
そのあとどのように仮住まいでの生活・暮らし
をすることになりますか。そして、仮住まい期を
どのように過ごしますか。
- “マイ生活継続計画”のシナリオを考えてみよう。

9

被災後、どんな生活を送るでしょうか 被災後の生活を想像してみよう

70代の夫婦：どこで、どのような生活になるだろうか？			
避難生活		仮住まい生活	
(1)在宅避難 1週間 その後、食料が流通し、台所が回復するまでは寝るだけ (2)避難所 雨漏りすれば、状況によっては、避難所生活も想定。	(3)縁故避難 雨漏り等で居住環境が劣化したら、息子A、B、義弟宅に、1週間ずつ巡回居住を。いずれも徒歩20分以内にいる。 ★自分が受け入れ側もあるかも？我家が一番古い・・・	(1)仮設住宅 ・市内で。 ・仮設住宅は、自宅(RC造)の修理が完了するまで。 ・親戚がアパートを営んでいるので、使えればその借上仮設も	(2)
その準備状況	不足課題	その準備状況	不足課題
・ ・ ・	・勝手に縁故避難を考えているが、十分に話し合っていない。 ・	・ ・ ・	・勝手に縁故避難を考えているが、十分に話し合っていない。 ・

10

4. あなたは、被災後にどんな生活を送るでしょうか 被災後の生活と家計を想像してみよう

どこで、どのような生活になるだろうか？			
避難生活		仮住まい生活	
(1) ・ ・ (2) ・ ・	(3) ・ ・ ・	(1) ・ ・ ・	(2) ・ ・ ・
収入・貯金	欲しい経済支援	収入・貯金	欲しい経済支援
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

11